

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
ECC国際外語専門学校	昭和59年2月20日	大谷内 圭	〒530-0015 (住所) 大阪府大阪市北区中崎西2-1-6 (電話) 06-6311-1446																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人山口学園	昭和58年11月22日	酒元 英二	〒530-0015 (住所) 大阪府大阪市北区中崎西2-3-35 (電話) 06-6366-1440																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	語学ビジネス専門課程	こども教育研究	-	平成28(2016)年度	平成28(2016)年度																														
学科の目的	<p>本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、語学ビジネス専門教育を通じて、実社会に有用な人材の育成を目的とする。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。グローバル社会で活躍できる保育士、幼稚園教諭を要請する。</p>																																		
学科の特徴 (取得可能な資格、中退率等)	<p>①こども教育業界・保育園・幼稚園での勤務のあるの講師・専門家による理論と実学教育を通じて、最先端の情報と技術を提供することにより、保育・幼稚園教育・小学校教育の現場が求める即戦力を伴った人材養成教育を行う。 ②授業で得た知識・技能を現場実習で実践することにより、経験力と教育力を高める。 ③英語能力を磨き、英語を使って保育・教育ができる人材となるための実用英語教育を行う。</p>																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
4年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入	3,420 単位数	3,570 単位数	30 単位数	単位数	単位数	単位数																											
			単位	単位	単位	単位	単位	単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
88人	23人	0人	0%	0%																															
就職等の状況	<p> ■卒業生数(C) 9人 ■就職希望者数(D) 9人 ■就職者数(E) 9人 ■地元就職者数(F) 4人 ■就職率(E/D) 100% ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 44% ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 100% ■進学者数 0人 ■その他 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) キンダーキッズ、いづる保育園、ぬくもり保育園、ライクキッズ、三幸学園、関西国際学園 </p>																																		
第三者による学校評価	<p> ■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人専門職高等教育保証機構 受審年月: 2022年2月 評価結果を掲載したホームページURL: https://qaphe.com/result/techgraduate/kokusaiecc/kokusaieccyear2021/ </p>																																		
当該学科のホームページURL	https://kokusai.ecc.ac.jp/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,420 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>30 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位数</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>3,420 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>30 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位数</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>30 単位数</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位数</td></tr> </table>							総授業時数	3,420 単位数	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	30 単位数	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位数	うち必修授業時数	3,420 単位数	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位数	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位数	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	30 単位数	総単位数	0 単位数	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位数	うち企業等と連携した演習の単位数	単位数	うち必修単位数	単位数	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位数	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位数	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位数
総授業時数	3,420 単位数																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	30 単位数																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位数																																		
うち必修授業時数	3,420 単位数																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位数																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位数																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	30 単位数																																		
総単位数	0 単位数																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位数																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	単位数																																		
うち必修単位数	単位数																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位数																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位数																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位数																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td>1人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	3人	1人															
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	3人																																		
1人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を設置し関連する企業、団体等との連携体制を強化し、授業科目やカリキュラムの更なる充実をはかる。業界に精通した協会および企業等より委員を選任し、年2回の委員会では以下の事項について協議をし、改善を積極的に実践する。

1. 授業内容・学習成果・進路成果を分析し、改善策を協議する。年二回実施する、学生アンケート結果や授業内容・進路内容・学校生活等の情報をもとに、教育内容の改善を行う。
2. 企業・業界からの新たなニーズや要望を受け入れ、カリキュラムや実習・授業以外のプログラムに組み込めるかを協議し、年間カリキュラム、プログラムに反映させる。そのために、積極的に就職先企業よりモニターリングを行い、職業人として必要な要素や課題の情報収集につとめる。
3. 教職員のスキル（専門知識/技術）と指導力の向上を図るために研修体制を継続的に行うための情報共有の場とする。教職員アンケート(年2回)を実施しその情報を基に、企業研修（インターンシップ）の事前教育、研修期間中、事後教育における企業との連携・調整の改善をおこなう。
4. 教育課程編成委員会で協議された内容を、学内カリキュラム編成委員会で検討し、次年度以降の実際のカリキュラムや学校事業に組み込み、採用できない場合はその背景をまとめ次年度以降の教育課程編成委員会で報告し了解を得る。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

以下の①～⑤の流れに沿って編成委員会において、教育課程の改善を図る

- ① 教務課：教育に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ② 進路指導課：進路指導に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ③ 第1回教育課程編成委員会：教務・進路指導の課題を受け、企業・業界の立場から改善策の協議と提案する。
- ④ 学内カリキュラム編成委員会：教育課程編成委員会での協議内容に基づき審議し実施可能か決定する。
- ⑤ 第2回教育課程編成委員会：新年度の人材育成目標、カリキュラム改善点等を報告し承認を得る。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
守屋 美智子	社会福祉法人 都島友の会	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	①
田中 七帆子	株式会社 キンダーキッズ	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	③
大谷内 圭	E C C国際外語専門学校 学校長		-
東井 喜美	E C C国際外語専門学校 副校長		-
杉田 典彦	E C C国際外語専門学校 進路指導課責任者		-
榊原 悠祐	E C C国際外語専門学校 教務課責任者		-
高崎 章宏	E C C国際外語専門学校 教務課		-
新井 寛規	E C C国際外語専門学校 専任教員		-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。）

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (7月、2月)
 (開催日時(実績))
 第1回 令和5年8月31日 11:00~13:00
 第2回 令和6年2月20日 10:00~12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 ・積極性を高めるために、保育園ではイベントや劇などを当番制にし、前向きな姿勢を養うことができるように対応していただいている。学内でもカリキュラムに劇の導入を検討している。劇以外でも得意なことなどを披露し認められる機会を創出していくことで自信につなげる。
 ・インターナショナルスクールでは手遊びや歌、ゲームなどは隙間時間に役に立つとのアドバイスを受けて、年代別にバリエーション増やすようにしていく。また、英語保育発表は、全員実施する形に改善していくが、学生個々の英語力に差があるため、実施内容・方法については検討を行う。
 ・指導案のデータ化について、現場では紙とデータのすみわけがなされており、データの場合は誤字や脱字に注意する必要がある。現場の実情に対応できるように、学内でもデータ化の指導を進めていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 1. 企業等との連携による実習・演習等の目的
 ・業界の実態を理解するために仕組み、内容、最新情報・技術を学生に授業を通じて提供する。
 ・業界での現場体験することにより、接客実戦(経験)力を高める。企業等と連携して実習・演習を行う。
 2. 企業等との連携による実習・演習等の運営
 ・企業等との連携による実習・演習等は本校教員と企業等から派遣された担当者が共同して実施する場合と、企業等から提供されたカリキュラム及び教材をもとに本校教員が授業を実施する場合がある。
 ・実施された実習・演習等については教務責任者、コース担任及び教育課程編成委員会で内容を検証し改善を図る。
 3. 企業等との連携による実習・演習等の評価
 ・本校教員と企業担当者が共同して実施する場合は、授業の成果に対して企業担当者の評価を基に本校教員が成績評価を行う。
 ・カリキュラム等を提供されて実施する場合は、企業等の成績評価規程に従って本校教員が成績評価を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 提携する保育園等の施設において、コース担当、及び専任教員が実習実施に向けて実習園、施設担当者、園長・責任者等から実習の方針、方法、内容などや事前、事後のカリキュラム内容、授業内容、進行に関して助言をうける。特に実習前において、実習にあたっての心得、姿勢など、現場の視点からの率直な指導を頂く。同時に各園、施設の最新事業についての知識を教授頂き、業界動向の更新、及びその流れに沿ったカリキュラム、指導内容へとつなげていく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
インターンシップ事前・事後指導IVA	4. 【校外】企業等が主催するインターンシップ等(学科が主体的に企画していないものを指す。)	インターナショナルスクールでの実習及びインターンシップの事前・事後指導	株式会社 キンダーキッズ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針	
<p>※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「教務規約第35条」に定められている通り、以下の基本方針を定めている。</p> <p>1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的 教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教授技術等の教育に関わる研修を毎年度それぞれ1回以上実施する。</p> <p>2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営 研修については講師を本校に迎え入れて教員全員が同時に受講する全体研修と、一部の教員が参加する外部研修を適時組み合わせて実施する。一部の教員が参加する外部研修については、その研修内容について報告会を実施するなどして教員全体へその情報を伝える。</p>	
(2) 研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
<p>研修名： 保育士のキャリアアップセミナー 期間： 令和5年7月19日 内容 保育士として働くだけではなく、資格取得することで選択肢が広がることを学び、学生へのキャリアデザインに役立てます。</p>	<p>連携企業等： (株)保育博実行委員会 対象： 教職員</p>
②指導力の修得・向上のための研修等	
<p>研修名： グループアプローチによる適応支援 -かかわりづくりワークショップ- 期間： 2023年2月14日 内容 入学直後の学生同士の関係づくりとして、「安全」かつ「有効な」かかわりづくりワークショップを実施するため、ワークショップの必要性と概要、ねらいと効果を学びます。実際の活動を体験しながら、どのようにワークショップを展開していくか、学生の実態に応じた展開の工夫やポイントを解説いただきます。</p>	<p>連携企業等： 株式会社図書文化社 対象： 教職員</p>
(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
<p>研修名： 「基礎的・校内研修」 期間： 2024年7月23日 内容 ①対話と合意の形成 ②ネットいじめの複雑化 ③コーチングコミュニケーションの重要性 ④ゲートキーパーと教師の役割についてのレクチャーを受けます。</p>	<p>連携企業等： 文部科学省 独立行政法人教職員支援機構 対象： 教職員</p>
<p>研修名： インクルーシブ教育オンライン研修 期間： 2024年8月6日 内容 インクルーシブ教育（Inclusive Education）のアプローチについて理解を深める。</p>	<p>連携企業等： British Council 対象： 教職員</p>
②指導力の修得・向上のための研修等	
<p>研修名： Hyper-QU結果の活用研修 期間： 2024年5月2日 内容 休退学防止の一環として取り組んでいるQUアンケートについて、学生対応・組織作りに関する課題を可視化し、改善するしくみを学びます。</p>	<p>連携企業等： (株)図書文化社 対象： 教職員</p>
<p>研修名： 心のサポーター養成研修 期間： 2024年11月11日 内容 心の不調に気づき、適切に対応できることが目的にこころの病気の疫学、こころの病気からの回復、メンタルヘルスファーストエイドについて学び、聴くワークを通して、実践的なスキルを身に付けます。</p>	<p>連携企業等： 大阪市こころの健康センター 対象： 教職員</p>

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の「学校評価実施規定」に学校関係者評価について以下のように定めている。

(学校関係者評価)

第11条 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会（以下「関係者委員会」という。）に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。

(関係者委員会の構成)

第12条 関係者委員会は、次に掲げる区分から校長が委託する委員により構成する。

(1) 関連業界等関係者 2名以上 (2) 卒業生 1名 (3) 保護者または地域関係者 1名 (4) その他校長が必要と認める者1名

2 委員の任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

(関係者委員会の運営)

第13条 関係者委員会に委員長を置く。

2 関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。

3 校長が必要と認める場合は、関係者委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

4 関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。

5 関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第14条 関係者委員会の報酬及び費用弁償については、本校が定める基準により支払う。

(学校関係者評価の評価結果)

第15条 委員長は、関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成しなければならない。

(学校関係者評価の活用)

第16条 教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

(学校関係者評価結果の報告)

第17条 校長は、学校関係者評価結果を理事会に報告しなければならない。

(学校関係者評価結果の公表)

第18条 校長は学校関係者評価結果について公表しなければならない。

(その他)

第19条 本規定に定めるもののほか本校の学校評価に関し必要な事項は、校長が別に定める。

本校ではこの「学校評価実施規定」に則り、年間1～2回、学校関係者評価委員会を開催、学園ホームページ上に公開している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか

<p>(3) 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員的能力開発のための研修等が行われているか
<p>(4) 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。
<p>(5) 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
<p>(6) 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
<p>(7) 学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
<p>(8) 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
<p>(9) 法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
<p>(11) 国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価で浮かび上がった課題を基に、教職員間の意見交換の機会や、学内で実施されていることの情報共有や意識統一の機会となるMTGを週1回実施している。また学生募集において留学の魅力訴求強化として、語学だけでなく経験値を積める多様な留学制度について発信を行っている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岸部 雄二	株式会社 Kスカイ	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業等委員
中上 隆雄	済美地域社会福祉協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	地域委員
杉井 蘭	卒業生	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生
貴治 康夫	高等学校教員	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	高校教員
五十嵐 駿太	株式会社 With The World	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員
荒木 駿汰	卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	卒業生
高田 由紀子	保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ・広報誌等の刊行物・その他（ ））

URL：<https://kokusai.ecc.ac.jp/>

公表時期：2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、その他の諸活動に関する計画 例：学校安全・保健対策等
（2）各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム（科目配当表（科目編成・授業時数）、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・終了の認定基準等）、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定、資格取得、検定試験合格等の実績卒業生数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）
（3）教職員	教職員数（職名別）教職員の組織、教員の専門性
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等の取り組み状況、就職支援等への取り組み支援
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動（部活動、サークル活動、ボランティア活動等）
（6）学生の生活支援	学生支援への取組状況
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い（金額、納入時期）活用できる経済的支援措置の内容等（奨学金、授業料減免等の案内等）
（8）学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方策
（10）国際連携の状況	留学生の受入れ・派遣状況、外国の学校等との交流状況
（11）その他	学則、学校運営の状況に関するその他の情報

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ・広報誌等の刊行物・その他（ ））

URL：https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/

公表時期：2024年7月31日

授業科目等の概要

(語学ビジネス専門課程 こども教育研究学科 (こども教育コース))																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			(H)教育相談ⅡA	乳児期・幼児期・児童期・青年期の心理的発達課題、及びその段階での様々な不適応の現れ方等について概観するとともに、今日、保育・教育現場で生じている問題についての子どもの心の理解と対応、および、保護者への対応についての理解を深めます。また、カウンセリングの技法を学びながら、授業を通してそれを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談のあり方や進め方について考えていきます。	2/前	30	2	○			○			○		
2	○			(H)こどもと人間関係ⅡA	領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることを目的とする。子どもを取り巻く人間関係の現代の特徴とその社会的背景を理解し、関係発達論的視点から、乳幼児期の人間関係の発達について理解する。教員の実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。	2/前	30	2	○			○			○		
3	○			(H)幼児教育課程論ⅡA	保育所や幼稚園、認定こども園等の集団生活をする場において、一人ひとりの子どもがそれぞれの発達にふさわしい経験を重ねていくためには、保育の羅針盤とも言える方向性を示すものが必要となる。それが保育カリキュラムである。幼児教育課程の編成は、保育の目的や目標を有効に達成するために、子どもの入所から退所までの長期的な発達の見通しを持ち、心身の発達に応じて保育内容を選択し、計画的・組織的に編成していく。	2/前	30	2	○			○			○		
4	○			(H)図画工作ⅡA	乳・幼児期の造形表現活動は、こどもの日常の「遊び」の中から自然に展開されるものです。この授業では、その「遊び」の環境を整え保障し、援助する視点や知識を実践的に学ぶことを目的とします。そこで、それらの環境に適した必要となる素材や画材・道具の特徴を経験的に学び、特に「出あい→見立て→想像・創造」という、こどもの表現プロセスの経験的理解、保育者に必要とされる豊かな感性を自己の中にも育てていくことを目的・ねらいとします。	2/前	30	2	○			○				○	
5	○			(H)こどもと健康ⅡA	健康な幼児を育てるためには、まず基礎となる幼児期の心身の発達・発育を理解し、それをふまえた実践のあり方を学ぶ必要がある。また、幼児期は基本的な生活習慣を確立していくための基礎が作られる大切な時期である子どもたちが、健康について興味関心を持ち、理解しやすいような実技指導ができるよう、お話をしたりパープサートを活用するなどいろいろな方法を学習する。	2/前	30	2	○			○			○		
6	○			(H)こども家庭支援の心理学ⅡA	この授業ではこどもから成人までの心身の発達プロセスを理解し、その発達を促進する環境要因について学びます。それとともに、現代社会におけるこどもを取り巻く環境の現状や課題を理解し、こども自身やこどもの家庭に対する支援のあり方について学んでいきます。	2/前	30	2	○			○			○		
7	○			(H)こども家庭福祉ⅡA	保育士として求められる子どもをめぐる家庭の問題や、基本的な知識である子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の理念、法制度、実施体系、政策的な動向と展望について、その内容と対応を資源を活用しながら基礎的理解を深める。また、教育連携校における姫路大学にシラバスに準ずる。	2/前	30	2	○			○		○			
8	○			(H)学校・学級経営論ⅡA	現代の学校教育に関する経営的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する理解を図る。さらに、学級経営の歴史や実践例を取り上げるとともに、学級が抱える今日的な課題について理解を深め、学級経営に関わる指導力の獲得をめざす。教育連携校である姫路大学シラバスに準ずる。	2/前	30	2	○			○			○		

9	○		音楽ⅡA	人間の情緒や感受性など心の精神面を育てるには、聴覚・視覚・指先の運動などを使う音楽が重要な要素の1つです。幼児保育や教育の中で音楽を表現するために必要とされる歌唱表現・器楽表現・身体表現を学びます。また鑑賞の能力を高めていきます。実際の幼児教育の現場で役立つ音楽の基礎的な表現能力を習得します。	2/前	30	2	○		○		○	
10	○		保育実習Ⅰ指導ⅡA	厚生労働省より、保育士免許取得には保育実習を30日間以上且つ240時間以上を実施しなくてはならないとある。本校では、2年生時に保育実習Ⅰ(施設・保育所)を実施する。実習に必要な礼儀作法や受け答え、実習中の適切な態度や基本的姿勢を習得しておく必要がある。また、実習における事務手続きや書類作成も順次すすめていかなければならない。	2/前	30	2	○		○		○	
11	○		児童英語教授法ⅡA	英語保育を目標として、幼児・児童への指導法の理解を深め、演習を通して幼児・児童を対象としたレッスンをを行う指導力の向上を図ります。	2/前	30	2	○		○		○	
12	○		多文化共生理解A	多文化共生社会の中で求められるグローバルマインドを身け、実社会で有用となるコミュニケーションスキル修得を目指して、本校留学生と日本人学生が様々なトピックについて互いの意見を交換し合う場を設けます。この授業は、複数の授業担当講師によるオムニバス形式で実施し、多様な考え方に触れ、自分の考え方を省みることが出来る柔軟な姿勢を持つことを目指します。	2/前	30	2	○		○		○	
13	○		(H)教育課程論ⅡB	小学校、幼稚園では「教育課程」は必須である。そこでこの「教育課程」の基本及び基礎的事項について学ぶ。また「教育課程」の編成論及び「指導計画」の作成についても包括的に考察し、学んでいく。	2/後	30	2	○		○		○	
14	○		(H)こどもの保健ⅡB	授業では演習を多く取り入れており、実際に体験することにより具体的に理解を深め、実践力につなげることを目的とする。内容は、子どもの発達とその評価方法、健康状態の把握、疾病の予防や感染症発生時の対応、事故防止及び安全教育、健康教育について学習する。	2/後	30	2	○		○		○	
15	○		(H)こどもの食と栄養ⅡB	子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基礎が形成され、その後の心と身体の健康に大きな影響を及ぼす。健康な生活の基本として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解を深める。食育の基本と内容及び食育のための環境と地域社会との連携について理解する。家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。	2/後	30	2	○		○		○	
16	○		(H)保育者論ⅡB	保育の仕事は、保護者から子どもの命を預かり、その子どもの成長・発達に大きな影響を与える仕事です。それは、自分の子どもを育てるのはまた違った、専門職としての責任や幅広い知識と技術、人間性が必要となります。加えて、近年、家庭や地域での子育て力の低下が見られる中、保護者の支援や地域の子育て家庭を支援する役割など保育の仕事は多岐にわたります。この科目では、保育者の仕事の専門性、保育士として知っておくべき法制度、保護者や地域の子育て支援、研修のあり方、保育者に必要な資質と責任、保育者の担う役割について学びます。	2/後	30	2	○		○		○	
17	○		(H)こどもと言葉ⅡB	幼児教育や保育において、言語の正しい習得新卒免の発達と非常に関係性が深い。 とりわけ、領域としての「言葉」は、他領域との関係性もあり、さまざまな活動の中で能力向上を助ける機能的側面がある。生活や遊び、学びなどに形を変えて関連する「言語」の領域を学ぶ講義である。	2/後	30	2	○		○		○	
18	○		(H)こども理解の理論と方法ⅡB	こども理解は保育の出発点であり、幼児の言動や表情から幼児一人ひとりの思い・考えを受け止め理解することが重要とされています。また、そのための環境構成、必要知識と理論の理解、適切な情報収集と分析を行うことが、その第1歩です。そのための具体的方法を本科目で学びます。	2/後	30	2	○		○		○	
19	○		(H)こども家庭支援論ⅡB	子育て家庭に対する支援の意義と目的、様々な子育て家庭のニーズに応じた支援の実施体制、子育て家庭に対する支援の方法等について学んでいく。また、教育連携校である姫路大学シラバスに準ずる。	2/後	30	2	○		○		○	

50			○	Intensive English Studies Advanced 1 II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	3/前	60	4	○		○	○	○		
51			○	Intensive English Studies Advanced 2 II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	3/前	60	4	○		○	○	○		
52			○	Business Communication Pre-Honors II A	日常生活やビジネスの場面で、英語での円滑なコミュニケーション力の向上を目指します。解答例や表現例を通して、目的や場面に応じた適切かつ効果的な英語力を養います。	3/前	60	4	○		○	○	○		
53			○	Speak Up Intermediate 1 II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	3/前	60	4	○		○	○	○		
54			○	Speak Up Intermediate 2 II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	3/前	60	4	○		○	○	○		
55			○	Speak Up Advanced II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	3/前	60	4	○		○	○	○		
56			○	Speak Up Pre-Honors II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	3/前	60	4	○		○	○	○		
57			○	Business Honors II A	This class is designed as a preparatory course for students' job search and working life.	3/前	60	4	○		○	○	○		
58			○	Film Criticism Honors II A	In this course students will learn the fundamentals of film criticism and interpretation. Moreover, students will develop an understanding of film as both a reflection of a larger socio-historical construct and as an artistic medium.	3/前	60	4	○		○	○	○		
59			○	短期留学単位 III B	海外への短期留学を通して英語力の向上、また多文化への理解を深めます。	3/後	390	26	○		○	○	○		
60			○	留学事前事後指導 III B	海外への短期留学を通して英語力の向上、また多文化への理解を深めます。	3/後	60	4	○		○	○	○		
61			○	キャリアデザイン(KE) III B	本科目は、就職活動の基礎的知識の習得を行い、自身の考えるキャリアプランに即した活動が行えるよう指導するものである。	3/後	30	2	○		○	○	○		
62			○	フィールドワーク III B	フィールドワークの概念やその具体的な進め方や手法を学ぶ。	3/後	30	2	○		○	○	○		
63			○	地域貢献・サービスラーニング III B	コースで学んだ専門性や専門技術を地域社会の課題解決につなげていく「サービスラーニング」についてまなび、社会人として求められる人間力を養う。	3/後	30	2	○		○	○	○		
64			○	カウンセリング実践 III B	カウンセリングを円滑に成功に導く技術を習得する。情報収集、クライアントと接触する際の押さえるべきポイントを、面接の初期・中期・後期にわけて学習する。	3/後	30	2	○		○	○	○		
65			○	ICTリテラシー基礎B	社会に出るにあたって必要となるICT活用力を身に付けるための、PCの運用力と活用力を醸成します。	3/後	30	2	○		○	○	○		
66			○	児童文学・児童資源 III B	文学作品の多くは、保育所・幼稚園では絵本や児童文化財のストーリーとして教材に取り上げられている。そのため、学生たちも身近な資源として活用してきたことであろう。より深い解釈や教材研究のために、原作の持つ社会背景や誕生のための必然性や、作品の生まれた風土や作者について知る。また、青年期の今こそ読んで貰いたい作品も取り上げる。できるだけ多くの原作・原本に触れ、文学の楽しさを享受したい。	3/後	30	2	○		○	○	○		
67			○	教育社会学 III B	この授業では、“教育”がどこにおいてどのような目的でおこなわれ、どのような働きを持っているのかについて理解するとともに、教育という営みについて自身の経験にとらわれることなく、データをもとに実証的に整理し議論する力を身につけることを目標とします。	3/後	30	2	○		○	○	○		
68			○	(Z)こども教育TA III B	校内教務・授業サポート及び清掃活動又は整理作業などを行い、教員補助の役割を体感することで、教育者になるための実技やマインドを養います。	3/後	30	2	○		○	○	○		

93	○		ICTリテラシー基礎A	社会に出るにあたって必要となるICT活用力を身に付けるための、PCの運用力と活用力を醸成します。	4/前	30	2	○			○	○	○
94	○		(H)教職実践演習IVB	本授業科目は教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかを最終的に確認するものである。本科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを目的とする。	4/後	30	2	○			○		○
95	○		地域貢献・サービスラーニングIVB	コースで学んだ専門性や専門技術を地域社会の課題解決につなげていく「サービスラーニング」についてまなび、社会人として求められる人間力を養う。	4/後	30	2	○			○		○
96	○		情操教育方法論IVB	園児の活動の中、また、発達段階の上で、大切な表現能力を高めるための「見る」「聴く」「動かす」をテーマに取り組む。ダンスを中心に表現力の向上のためにどのような創作をしたらいいのか。一つ一つの動きに対する表現要素を学ぶ。一つの音楽にもたくさんの表現方法があり、音取り、リズム感、抑揚、などの観点から表現動作を探索する過程を学ぶ。	4/後	30	2	○			○		○
97	○		カウンセリング実践IVB	カウンセリングを円滑に成功に導く技術を習得する。情報収集、クライアントと接触する際の押さえるべきポイントを、面接の初期・中期・後期にわけて学習する。	4/後	30	2	○			○		○
98	○		人間学IVB	日常生活の中で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的能力を習得します。	4/後	30	2	○			○		○
99	○		あそび学IVB	幼児は、毎日いろいろな遊びを通して心身が発達し、パーソナリティが形成されていきます。ですから、保育士は、年齢に応じた遊びの提供をすることがとても大切になります。元来遊びは大人が教える物ではなく、子ども達が自ら生み出していく遊びであるべきですので、遊びを知り遊びを深め、子どもも立ち通して遊びを展開していく事が重要になります。「いきいきと」「たくましく」「自ら考える」「のびのびと行動できる」子ども達に成長出来るように、いろいろな遊びを提供し展開して遊ぶ事ができるよう「遊びの引き出し」を学び、研究していきましょう。	4/後	30	2	○			○		○
100	○		卒業模擬レッスンIVB	4年間で習得した「児童英語教授法」を用い、実際にこどもたちにレッスンをを行います。	4/後	30	2	○			○		○
101	○		卒業研究指導IVB	こども教育コース4年間の総括的な科目。自身が学んできた教育学及び英語教授、語学の理論や知識を基に、教育・英語・福祉・語学等における社会的課題や問題点を小論文にまとめ、発表する。4年間の専門学校生活が集約される論文の作成を目指す。	4/後	30	2	○			○		○
102	○		Intensive English Studies Intermediate 1 II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	60	4	○			○	○	○
103	○		Intensive English Studies Intermediate 2 II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	60	4	○			○	○	○
104	○		Intensive English Studies Advanced 1 II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	60	4	○			○	○	○

105			Intensive English Studies Advanced 2 II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	60	4	○		○	○	○						
106			Business Communication Pre-Honors II A	日常生活やビジネスの場面で、英語での円滑なコミュニケーション力の向上を目指します。解答例や表現例を通して、目的や場面に応じた適切かつ効果的な英語力を養います。	4/前	60	4	○		○	○	○						
107			Speak Up Intermediate 1 II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/前	60	4	○		○	○	○						
108			Speak Up Intermediate 2 II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/前	60	4	○		○	○	○						
109			Speak Up Advanced II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/前	60	4	○		○	○	○						
110			Speak Up Pre-Honors II A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/前	60	4	○		○	○	○						
111			Business Honors II A	This class is designed as a preparatory course for students' job search and working life.	4/前	60	4	○		○	○	○						
112			Film Criticism Honors II A	In this course students will learn the fundamentals of film criticism and interpretation. Moreover, students will develop an understanding of film as both a reflection of a larger socio-historical construct and as an artistic medium.	4/前	60	4	○		○	○	○						
113			TOEIC1 II A	TOEIC Listening & Reading 対策教材を使用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/前	90	6	○		○	○	○						
114			Journalism Honors II A	ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	4/前	60	4	○		○	○	○						
115			Cultural Anthoropology Honors II A	This course is an introduction to cultural anthropology with an examination of various cultures, tradition, and beliefs around the world.	4/前	30	2	○		○	○	○						
116			TOEIC2 II A	TOEIC Listening & Reading 対策教材を使用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/前	90	6	○		○	○	○						
117			TOEIC3 II A	TOEIC Listening & Reading 対策教材を使用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/前	90	6	○		○	○	○						
118			TOEIC4 II A	TOEIC Listengin & Reading 対策教材を利用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/前	90	6	○		○	○	○						
119			Intensive English Studies Intermediate 1 II B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/後	60	4	○		○	○	○						
120			Intensive English Studies Intermediate 2 II B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/後	60	4	○		○	○	○						
121			Intensive English Studies Advanced II B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能連動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「瞬発力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/後	60	4	○		○	○	○						
122			Business Communication Advanced II B	日常生活やビジネスの場面で、英語での円滑なコミュニケーション力の向上を目指します。解答例や表現例を通して、実践的な英語力を養います。	4/後	60	4	○		○	○	○						

123	○	Business Communication Pre-Honors II B	日常生活やビジネスの場面で、英語での円滑なコミュニケーション力の向上を目指します。 解答例や表現例を通して、実践的な英語力を養います。	4/後	30	2	○		○	○	○	
124	○	Translation Pre-Honors II B	This is intended to be an introduction to non-simultaneous translation. It is intending to build grammar, vocabulary and fluency skills in English, and increase overall speed of processing language.	4/後	30	2	○		○	○	○	
125	○	Speak Up Intermediate 1 II B	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/後	60	4	○		○	○	○	
126	○	Speak Up Intermediate 2 II B	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/後	60	4	○		○	○	○	
127	○	Speak Up Advanced II B	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/後	60	4	○		○	○	○	
128	○	Speak Up Pre-Honors II B	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	4/後	60	4	○		○	○	○	
129	○	Business Honors II B	This class is designed as a preparatory course for students' job search and working life.	4/後	60	4	○		○	○	○	
130	○	Film Criticism Honors II B	In this course students will learn the fundamentals of film criticism and interpretation. Moreover, students will develop an understanding of film as both a reflection of a larger socio-historical construct and as an artistic medium.	4/後	60	4	○		○	○	○	
131	○	TOEIC1 II B	TOEIC Listening & Reading 対策教材を使用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/後	90	6	○		○	○	○	
132	○	Journalism Honors II B	ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	4/後	60	4	○		○	○	○	
133	○	Cultural Anthoropology Honors II B	This course is an introduction to cultural anthropology with an examination of various cultures, tradition, and beliefs around the world.	4/後	30	2	○		○	○	○	
134	○	TOEIC2 II B	TOEIC Listening & Reading 対策教材を使用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/後	90	6	○		○	○	○	
135	○	TOEIC3 II B	TOEIC Listening & Reading 対策教材を使用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/後	90	6	○		○	○	○	
136	○	TOEIC4 II B	TOEIC Listengin & Reading 対策教材を利用し、英語を通した一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	4/後	90	6	○		○	○	○	
合計				科目			240 単位 (3600単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：1710時間		1学年の学期区分	2期
履修方法：114単位を取得すること		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、また各方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。